

講演者及びパネリストプロフィール

ジュリー・ホートン氏 (Ms. Julie Houghton)

英国食品研究所研究員

イーストアングリア大学社会・社会考古学士、同大学医療社会学修士。同大学環境リスク管理センター上級准研究員、医学部研究員等を経て、2004年から英国食品研究所消費科学グループ研究員。

リスク認知、リスクコミュニケーション及びそれらの調査手法開発等を研究分野として活躍しており、論文多数。最近では、「食品リスク管理の効果に関する消費者の認識：比較文化研究」(2006年、共著)、「食品安全リスク管理の実例：消費者及び専門家の認識」(2006年、共著)、「主要関係者間の食品安全リスク管理に関する認識」(2006年、共著)などを発表している。

2004年から欧州共同体の「SAFE FOODS」プロジェクトに参加し、効果的なリスク管理のための消費者のリスク認知や各国の比較調査研究等を行っている。

英国食品研究所 (IFR) とは？

The Institute of Food Research

保健、健康に資するため、食品及び食品に由来する疾病管理等について、国際的なリーディング機関として1986年に設立。BBSRC (遺伝子工学生物学研究委員会) の出資による非営利公益機関で、食品に関する英国における唯一の統合基礎科学研究機関。所在地は英国ノリッジ。

世界的にも公式、非公式に研究協調を行っている。研究成果は、英国だけでなく国際的政策に活用されており、英国政府、業界、消費者等へのアドバイスを行っている。

IFR ホームページ <http://www.ifr.ac.uk/>

SAFE FOODS とは？

新しい統合的なリスク分析により食品安全を推進するEUの第6期フレームワークプロジェクトの1つ。多様な学術的アプローチにより食品安全に関するリスク分析手法を向上させ、フードチェーンに対する消費者の信頼回復を目的とする。

SAFE FOODS ホームページ <http://www.safefoods.nl/default.aspx>

野村 一正 (のむら・かずまさ)

食品安全委員会委員

1970年時事通信社入社、経済部で、官庁や家電業界、鉄鋼業界、運輸業界などの民間業界取材を担当。1989年から「農林経済」編集長、1998年から編集局編集委員を経て、2001年から2006年7月まで解説委員兼整理部長。

葉たばこ審議会委員、水産政策審議会委員、食料・農業・農村政策審議会統計部会臨時委員、「食」と「農」の連携強化検討会委員、新たな需給調整システムへの移行の検証に関する検討会委員、バイオマス・ニッポン総合戦略推進アドバイザーグループ委員などを歴任、2006年7月から現職。

関澤 純 (せきざわ・じゅん)

食品安全委員会リスクコミュニケーション専門調査会座長

徳島大学総合科学部教授。東京大学農学系大学院博士課程修了。東京都公害研究所、ニューヨーク州立大学、民間企業、国立医薬品食品衛生研究所化学物質情報部などを経て、2003年から現職。専門は化学物質・環境・食品のリスク評価とリスクコミュニケーション。